

中学校（5-3②）—印南町立印南中学校—

Ⅲ 先人の経験に学ぶ A 語り継ぐ責任

（学級活動 1時間）

単元名「地震・津波から命を守る」

1 目標

- 津波被害を経験し乗り越えてきた先人の考えや思いを理解し、津波被害の経験や記録を未来に伝える方法などを考える。

2 展開

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）と評価（☆）
【導入】	<p>1 本時の課題を把握する。</p> <p>◇東日本大震災で釜石市の小中学生には犠牲者がほとんどいませんでした。津波による犠牲者をなくすために、人々はどのような努力をしてきたのでしょうか。</p>	<p>【スライド】印南中学校「語り継ぐ責任」を順に投影</p> <p>○女川町では人口の8%に当たる827人が犠牲になった。その町にある女川第一中学校の震災後の取り組みを紹介。</p> <p>○全国に残された津波災害碑を紹介 大きな災害があるとそれを後世に伝えるための努力は各地で行われてきた。</p>
【展開】	<p>2 印南の南海地震災害をふり返る。</p> <p>【資料-53②】【ワークシート-53②】を配付</p> <p>◇過去の南海地震の名前と印南での災害状況はどうでしたか。 ワークシートの1に記入する。</p> <p>3 伝承が災害軽減につながることを理解する。</p> <p>◇印南に残る津波災害記録は印定寺の合同位牌と合同墓碑ですが、この災害で印南の人々はどのような教訓を得ましたか。 ワークシート2に記入しなさい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「大地震がおこったらその後すぐに大津波がやってくる。」という教訓を得た。</li> </ul> <p>◇安政南海地震のときに印南は地震津波による死者は出ませんでした。これは宝永の教訓が地域で生きていたからだと思いますが、資料の中の森家文書と東光寺記録にそれを示すところを捜しましょう。 ワークシート3の文書にアンダーラインを入れましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安政『今年6月の夜明け頃地震に驚き、これは津波が来ると言いだし、その頃より宝永4年の10月4日の津波に流死者が多数あったと別紙に写されたとおり、印</li> </ul>	<p>【スライド】印南中学校「語り継ぐ責任」を投影</p> <p>○南海地震の歴史をふり返り、印南での被害を簡単に確認する。</p> <p>○生徒が朗読する宝永南海地震の印定寺合同位牌裏書きを聞く。</p> <p>○安政、昭和南海地震の資料を示す。</p> <p>○被災の程度は地震発生状況（発生時間、津波の到達時間や規模）や地域性が関係しているが、過去の体験が十分に伝わったときとそうでない場合に大きな差が出ることを理解させる。</p>

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）と評価（☆）
【展開】	<p>定寺石碑に書かれていることを見だし心の準備をしていた』『津波が来ると云われたら、このあたりの人々は身一つで逃げ去る覚悟ができています』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教訓が伝承されていたからすぐに行動できた。</li> <li>・昭和『地震後夫は浜に出た』『津波の知らせを受けて逃げる』『地震後すぐに逃げないで津波の侵入で初めて逃げ始めた。』 → 伝わっていない。</li> </ul> <p>4 伝承が伝わらない原因を探りこれからの伝承のあり方を考える。</p> <p>◇ 宝永に比べ安政の記録は7点になり多くなっているにもかかわらず、昭和の南海地震では津波による犠牲者が16名も出てしまいました。どうして増えてしまったのか、班に分かれて話し合しましょう。小川さんの覚書と日下さんの記録を参考に原因を考えましょう。</p> <p>ワークシート4(1)(2)に記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安政の時の死者が0であったので、油断していた。</li> <li>・記録が各家に埋もれ、地域の共有情報とならなかった。語り継がなかった。</li> <li>・津波が来るのが早かった。</li> <li>・津波の怖さを知らない人が増えた。</li> <li>・戦争が終わった後で混乱していた。</li> <li>・江戸時代と明治以降の知識伝達のしくみが変化した。学校が知識伝達の主となり、防災教育は行われなかった。</li> </ul> <p>◇ 伝わらなかった原因をふまえて、災害記録を未来へ確実に伝えて行くために、みなさんはどうしたらいいでしょうか。再度話し合しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分達が大人・親になったときに子どもにきちんと伝える。</li> <li>・地域の避難訓練に参加し、今日学んだことを伝える。</li> <li>・広川町のように津波祭をする。</li> <li>・法要を再開する。</li> <li>・子どもに必ず伝える努力をする。</li> <li>・紙芝居「印南のキセキ」を地域で上演する。</li> <li>・保護者や地域の人にも集まってもらって、学習発表会をする。</li> </ul>	<div data-bbox="932 622 1398 965" data-label="Image"> </div> <p>○班に分かれて話し合う。</p> <p>○概要を発表ボードに記入させる</p> <p>○問題提起になるような内容があれば、発表させ全体で話し合う。資料や経験を基に根拠を明らかにしながら意見を出させる。</p> <p>○話し合いで出た方法を発表ボードに転記し、代表に発表させる。</p> <p>○大阪市大正区や広川町の例をあげて、伝承には継続する努力と同時に伝える「しくみ」も必要であることを示す。</p> <p>☆班員と話し合っ、行動に移せる具体的な方法等を考えることができたか。</p>

	学習活動と内容 主な発問・指示（◇）予想される子どもの反応（・）など	指導上の留意点 支援（○）と評価（☆）
【まとめ】	5 学習を振り返る。 ◇まとめを記入し、あわせて感想を書く。	○これまでの南海トラフ地震では、必ず津波が印南町を襲っていることから、当事者意識をもって感想を書かせる。

### 3 指導にあたって

当地は海岸線が入りくむなどの地理的な条件により古くから地震・津波の襲来を受け、そのたびに大きな被害を被ってきた歴史がある。平成23年3月11日に東北地方太平洋沖地震が発生し、東日本に未曾有の被害をもたらした。また、本県では同年9月に台風12号による紀伊半島豪雨が起り大規模な土砂災害や河川の氾濫等で死者・行方不明者合わせて61名の犠牲者を出した。当地では、近い将来発生が危惧される南海トラフ地震、局地的に起こる大きな風水害から子どもの命はもちろんのこと、住民の命を守るために防災教育を徹底していかなければならない。

当校では平成17年度から5年間にわたり生徒による津波研究班を結成し、「印南湾における津波の挙動」をテーマに津波の高さや浸水域等を調査してきた。平成22年度からは、これまでの津波研究を生かして地域住民の命を守る「津波防災の取組」へと移行してきた。これらの取組の成果は、町公民館印南分館や区長会から依頼を受けてその都度地域住民に発表してきた。地震・津波を想定した避難訓練は年数回実施し、あらゆる状況下でも「自分の命は自分で守る」ことを基本として率先避難の行動力を育てている。例えば平成24年9月には、生徒の下校時に地震・津波襲来を想定して避難訓練を行ったりもした。また、生徒会で地区会を組織し、定期的に「各地区の避難場所」「各地区の連絡網」や「家族の避難場所」の確認も行ってきた。

生徒は、このような取組を通して津波避難や自助の意識は高まっている。今後はその蓄積を生かし、学校として今まで以上に組織的、意図的、計画的、継続的に防災教育を行い、避難訓練等を充実させ、行動力を鍛えていく必要がある。また、地域の自主防災組織による避難訓練などへの積極的参加で、地域リーダーの一人としての期待に応えていく必要がある。

本単元は和歌山県教育委員会から平成23年12月に出された「和歌山県防災教育教材・津波防災教育指導の手引き」をもとに、理科、特別活動〔学級活動、学校行事（健康安全・体育的行事）、生徒会活動〕の指導で総合単元的な学習として計画した。教材は、身近な地域の資料等を発掘して活用することにより、印南、和歌山の歴史的な魅力や先人の経験、考えや思いを理解し、語り伝えることができるように工夫したい。

指導方法、指導形態については、チームティーチングやグループ協議等を取り入れ、意見交換やコミュニケーションを重視した指導を心がけたい。そうすることにより、個々の生徒の理解や経験の違いを乗り越えて「地震・津波から命を守る」行動力を高めることができると考える。

### 4 単元の指導計画（全7時間）

- |                                    |         |
|------------------------------------|---------|
| (1) 地震による災害を知る（理科）                 | 1時間     |
| (2) 対処行動を知る 津波から避難方法を知る（学級活動）      | 1時間     |
| (3) 対処行動を知る 避難できない人間の心理を知る（学級活動）   | 1時間     |
| (4) 避難訓練をする 火災、地震・津波を想定し行動する（学校行事） | 3時間     |
| (5) 先人の経験に学ぶ 語り継ぐ責任（学級活動）          | 1時間（本時） |

### 5 単元の目標

- (1) 地震・津波から命を守るための知識を身に付け、命を守ることができる。
- (2) 避難訓練に積極的に参加しようとする態度を育てる。
- (3) 先人の経験や資料を基に、教訓を伝える大切さを理解するとともに、語り継ぐ態度を育てる。